

英語ディベートは 英語能力を向上させるのか？

探究文科2年

序論(動機)

部活動での**英語ディベート**



英語能力の向上(実感)



英語ディベートは
具体的にどれくらい効果があるのか？

序論(先行研究)

・英語ディベート活動の前後で、高校生のGTECや定期テストの点数が上昇
(問田,2013)

・英語ディベートにより高校生の自律性や学業成績が向上
(高畑,2013)

序論(研究の目的)

「英語ディベートは英語能力を向上させるのか？」



英語能力の変化を具体的な数値で示したい

「英語能力の変化はディベートによるものなのか？」



本人がどのように感じているのか(実感)

実験1：アンケート調査

対象：武生高校グローバル部

目的：**英語能力**の変化の実感を調べる

方法：1年間の活動終了時にアンケート調査を行った

「**英語ディベートの活動**を通して、自身の**英語能力**が
どのように変化したと感じていますか？」

武生高校グローバル部について

部員:2年生 7人 1年生 6人

→実験メンバー:2年生 6人 1年生 3人

主な活動:・**即興ディベート**

(火、水、木の放課後2時間、2試合程度)

・毎年秋に県大会

実験2:ライティングテスト

対象:武生高校グローバル部

目的:ライティング能力の変化をみる

方法:8月~12月にかけて、8回のテストを実施

ライティングテストの詳細

- ・テストは英語技能検定に基づく(準2級、2級)

- ・時間は**15分間**

- ・内容、構成、語彙、文法の4観点に基づき

ALTが採点(各4点、**計16点**)

- ・**ワード数**も記録

実験3: GTEC

対象: 武生高校グローバル部(2年生のみ)

目的: 英語能力の変化をみる

(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)

方法: 1年次と2年次のGTECのスコアを比較

実験1の結果

「英語ディベートの活動を通して、自身の英語能力がどのように変化したと感じていますか？」



全員がスピーキング、ライティング能力が向上したと実感

実験2の結果

グループA: スコア、ワード数ともに向上

グループB: スコア向上、ワード数減少

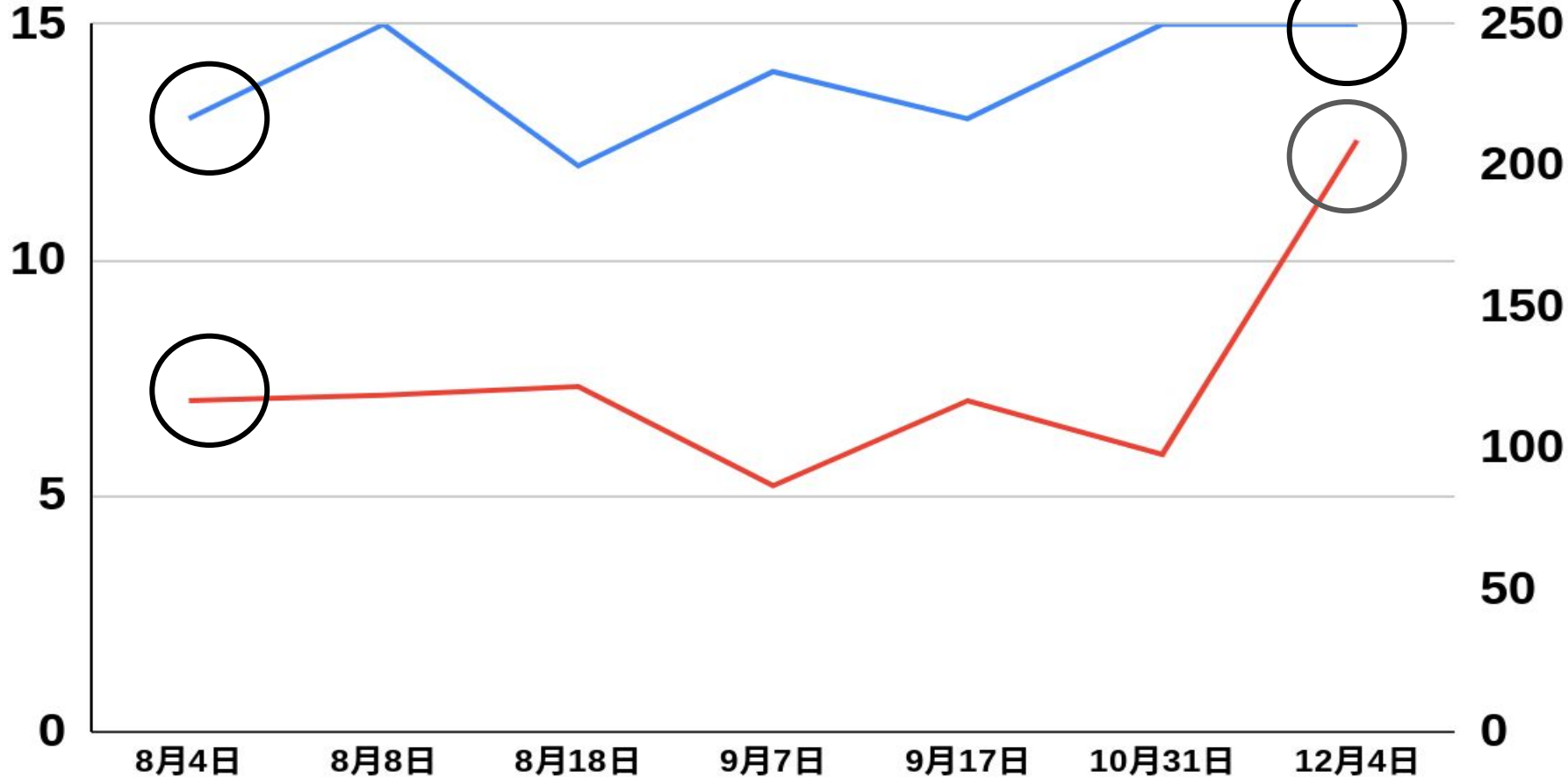
グループC: スコア低下、ワード数増加

グループD: スコア、ワード数ともに低下

グループA: スコア、ワード数ともに向上→2人(9人中)

グループA 1人の結果

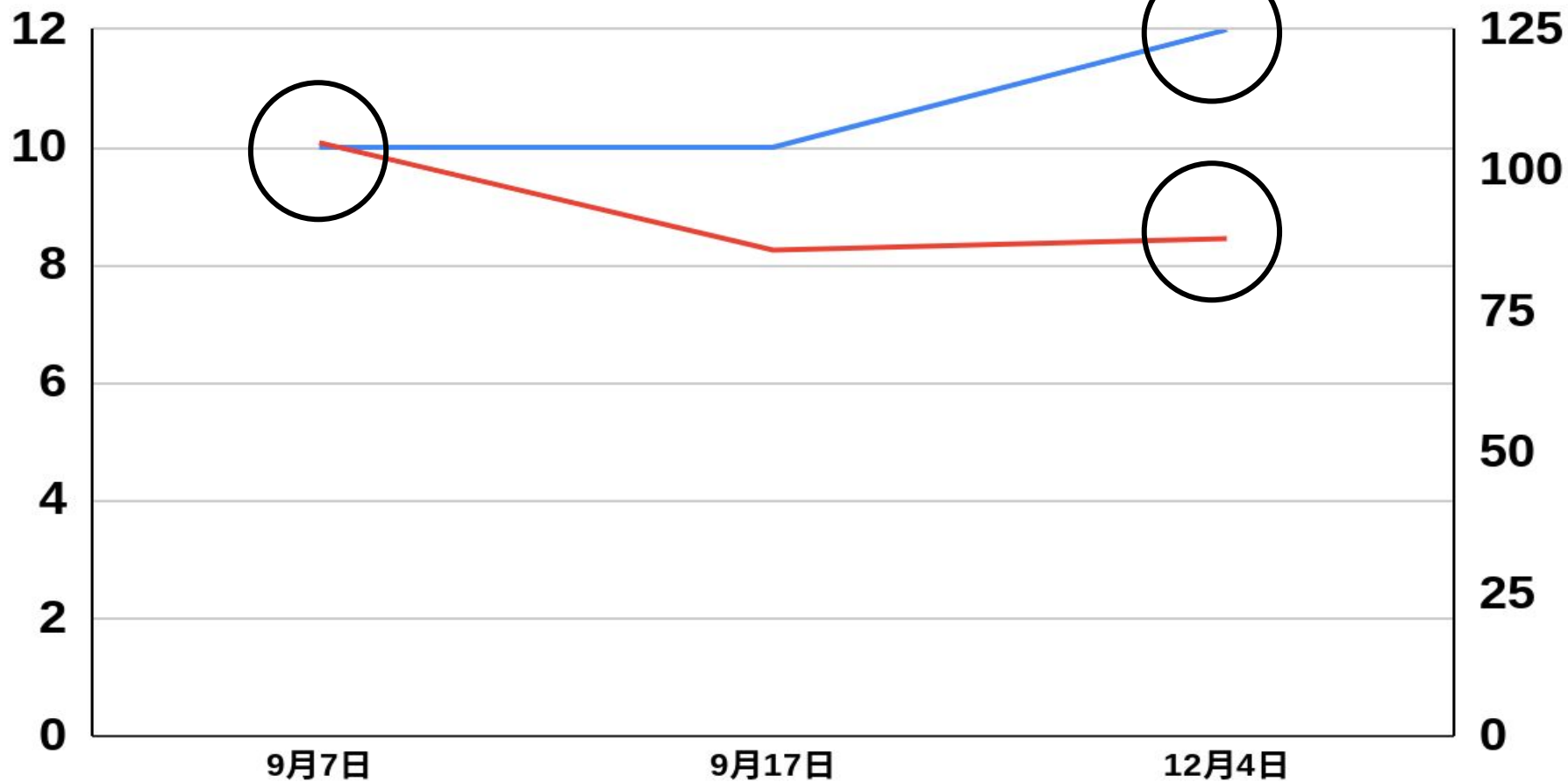
— score — word



グループB: スコア向上、ワード数減少→3人(9人中)

グループB 1人の結果

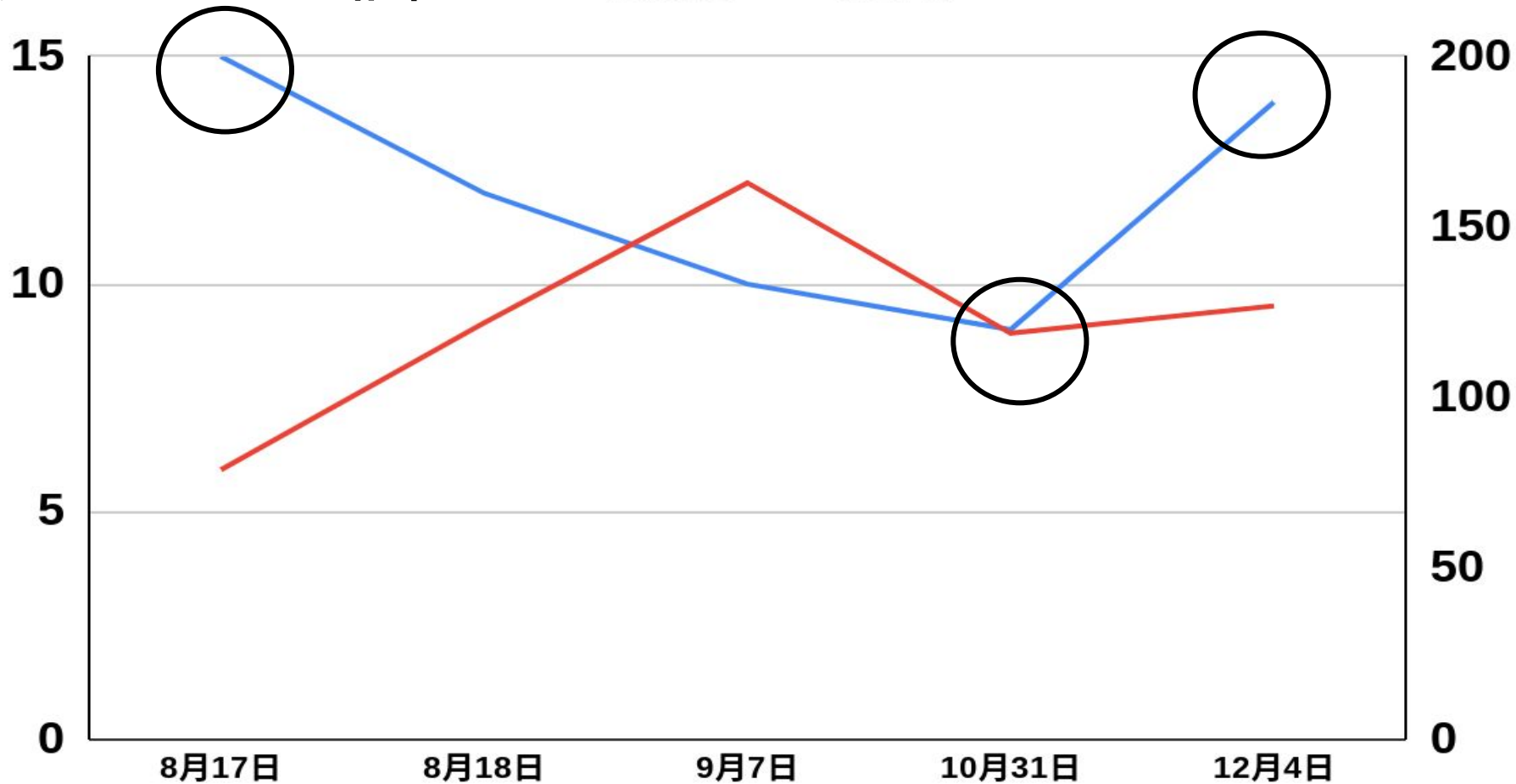
— score — word



グループC: **スコア**低下、**ワード数**増加→1人(9人中)

グループC 1人の結果

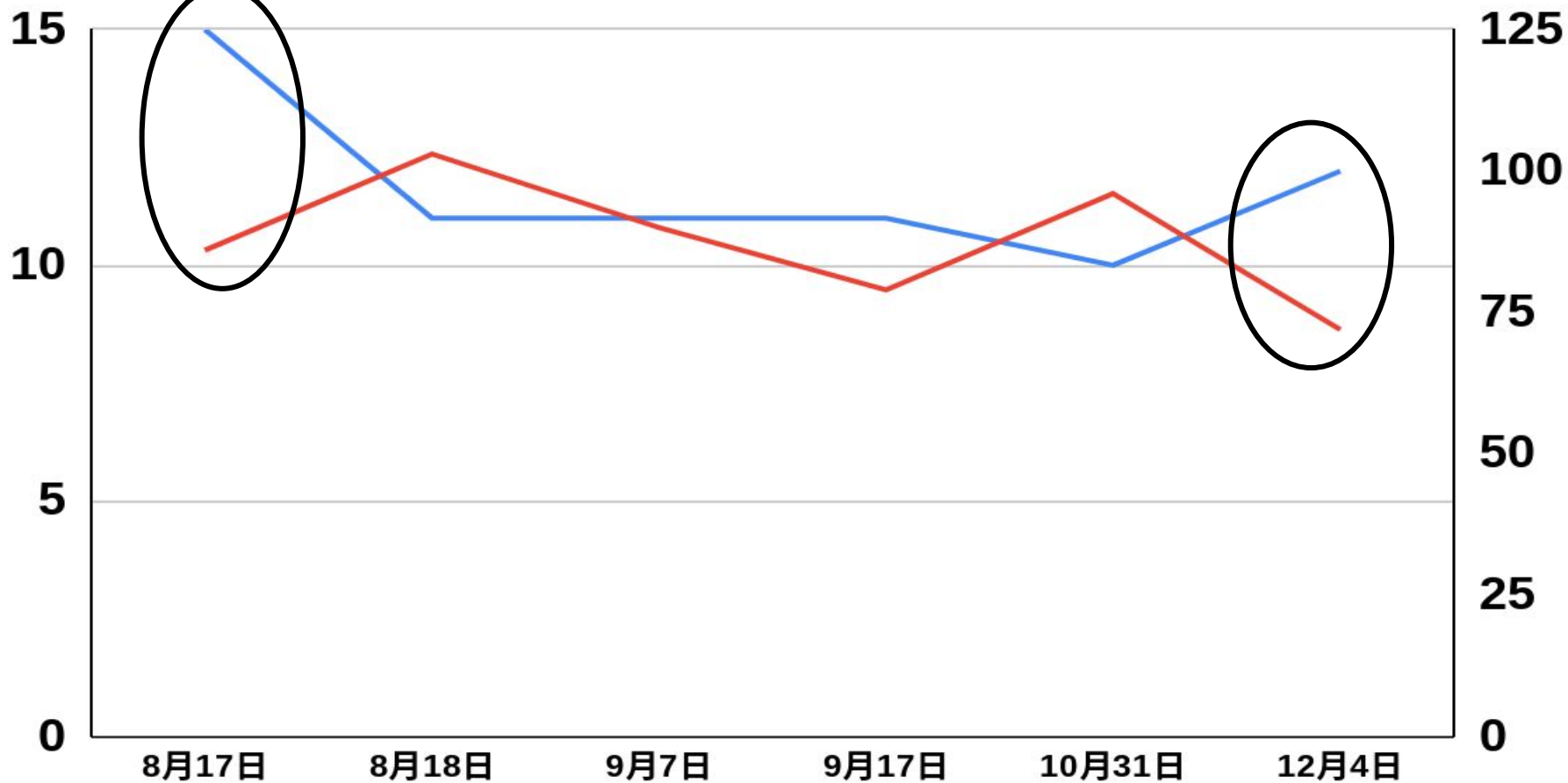
— score — word



グループD: **スコア**、**ワード数**ともに低下→3人(9人中)

グループD 1人の結果

— score — word



結論と考察

ライティングテストの結果

スコア向上：5人（9人中）

スコア、ワード数ともに向上：2人



ディベートの効果は不明確

ライティングテストの問題点

トピックの難易度による影響が大きい

テストの回数が少ない



英語能力の変化を正しく測れていない可能性

今後の活動

実験3(GTECのスコア比較)を行う



4技能の測定(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)

校内平均との比較



ディベートによる英語能力の変化